

々二百餘の人家あるのみ、支那政府は此地を臺灣省の首府となすの
經書ありしが、交通の不便より、臺北を會省とせり、我が版圖となるに
及び、此地に縣廳を設けらる。

臺灣 臺灣第一の大都會にして、鄭氏の都を定めし以來、本島中央政府
のありし所にして、方今南部商業の中心たり、府城は石造にして、二里
餘の長方形をなし、八門を開く、市街は家屋壯麗なり、道路は狭けれど
も石を鋪けり、人口十五萬、或は二十萬と云へり、西南一里に安平港あ
り、臺南の港口たり、港より直に府城の西門に通ずる運河あり、船舶よ
り端艇にて貨物を臺南に運ぶ、本府は全島中最も早く開けたる所に
して、明末の海盜も、本土の流民出て、盜をなすものも、此地を根據と
せり、和蘭人來りて之に據るに及び、東洋貿易の一市場となれり、其後
鄭成功來りて和蘭人を逐ひ、首府を設け、東寧府と稱せり、清國収めて
版圖とせるに及び、臺灣府を改め、知府を置けり、我が版圖に歸するに

及び、臺南縣を設置せり。

東岸得其黎よりトーム角まで十里、此間の海岸は、斷崖絶壁にして其
險峻なること、意相外に出で、諸山殆ど水際より直立して、高さ七千尺
に至る、其壯觀知るべきなり、此絶壁は世界第一の高斷岸にして、東岸
を航するもの、其絶景を稱せざるものなし。

本島の住民に二種あり、一は蕃人にして、古代より本島に住居し野蠻
の人民なり、一は支那大陸の移住民にして、支那固有の風俗習慣を存
せり、本島は人口三百萬と稱すれども、其大部分はこの移住民にして
即ち本島の豊饒なる大部分を占領せり。

客家 支那移住民の中に、客家と稱する種族あり、此種族は廣東地方に
多く住居するも他の支那人は之を別個の種族と看做し、土着の人民
は、之を外來の種族として、排斥す、これ客家なる名稱の起る所以なり
此種族の特性は、慍悍勤勉にして、能く勞役に耐へ、困苦を嘗すを以て

○生蕃

粗暴の蕃民と界を接して、村落を造り、其地を蠶食して疆域を擴む。此種族に限り、土人と結婚するを嫌はざるを以て、人口の増殖甚だ盛にして支那移住民中、殊に速に膨脹せり。清佛葛藤を生じ、干戈を臺灣に交へたる時、劉銘傳の麾下に在て、驍勇の名を博したる兵卒は、此種族なり。客家の集りて村落を成せる所は、北部にては臺北より新竹、苗栗の山中に多く、南部にては臺南より鳳山の近傍の山中に多く、近時我師に抗し、頑妄の舉ありし土匪なるものは、大抵此種族に屬す。此種族は争を好み、屢々清廷に對して、一揆を起せしことありといふ。

蕃人に、生蕃と熟蕃との別あり、此區別に因りて、各々風俗習慣を異にせり。

熟蕃は支那人と交通して、其管轄を受け、之に租税を納むるものなり。生蕃は從來支那人に對して、敵意を挟みし者なり。

生蕃は、一に山蕃といひ、深山幽谷の間に住み、頗る殺生を好み、鹿を狩

○蕃人の種別

り魚を捉へて、生計をなす、農業は其餘業なり。

熟蕃は、平埔蕃ともいひ、丘陵及平野に住み、支那人と雜居して耕業をなす、稍平和なる種族なり。

臺灣の土人は、馬來種にして、之を四種に別つ、擺安種族、阿眉種族、知本種族、平埔蕃是なり。

○擺安種族

擺安種族は、最も古き住民にして、概ね嶮嶮にして往來し難き内地の山中に住み、其性殘忍多欲なり、情慾盛に動き易く、一旦動くときは、百事を顧みざるに至る、頭顱を得んとする風行はれ、勇士は二三の頭骨を有せされば、婦人の好情を博する能はざるものなり、或は頭骨を贈り物とし、或は之を埋めて石碑を立つ、其數の多きを以て誇るものあり、其衣服は二個の膝掛のみ、一を前にし、一を後にす、寒き時は鹿皮の胴服を用ひて之を補ふと云ふ。

知本人の酋長と、其家族とは、手腕首及手の胛と指とに入墨し、之を以

○知本種族

○阿育種族

て高貴の血統の徽章とし、常人に入墨を許さず、衣服は脚絆、腰巻及び水牛皮の長衣を着せり、酋長の大禮服は、頗る美麗にして、方圓形等の模様を刺繡せるものなり、此種族は農業を勤め、漁獵は其次なり、支那官吏は、臺灣にて制し易き人民なりといへり。

阿眉種族は、一種奇異なる人民なり、外國人の之を土人の内に數ふるも、他の土人の之を外來者と做せり、此種族は他の蕃人と社交上對等の地位を保つ能はざるものと、自らも思へり、土蕃中にて新年を祝はるは、此種類あるのみ、其時期は秋穫の後なりといふ。

平埔蕃族とは、支那人の呼びし所にして、平野の蕃民といふ意なり、此種族は、もと琉球より移住せりと謂ふ、此種族は、愚直にして、其身軀も財産も大陸より來れる狡猾の支那人に奪はれ、此蕃族の開墾せる土地の過半は占有せらる、此種族の兵器を有するは、防禦の爲にして、頭顱を得る爲にあらず、此蕃人今は支那人と混合し直に舊套を脱し、支

○平埔種

○奇異なる習慣

那人より一層狡猾なるに至り、其特質全く消失するに至れり。

蕃人の習慣にして奇異なるものあり、各村落にパライカンと稱する大なる家屋あり、村内の少年をして結婚に至るまで、爰に住せしむ、其食物は父母之を運び決して自家に住むを許さず、暇あれば各職業を營む、村内公共の事あれば、蕃人鈴を腰につけて、村内を走り、集會を報じパライカンにて之を議す。

○闘争

蕃人は些少の怒りに、闘争を起し、葛藤久しきに亘り、勝敗決せざることをあれば、兩種族は決戦をなし、夜に及び殺傷の數を算し、其多きものを敗者となし、勝者に相當の賠償を與へ、以て平和を復することあり、又復讐の事、盛に行はる、生蕃の人を殺すは、頭顱を得んが爲めにして、二三十人一群をなして、兵糧を持ち、軍行することあり、外人を殺せば、嘗て部落を殘酷の所行を以て掠殺されたるが爲に復讐するの意なりといふ。

○婚姻

婚姻の風俗、奇異なるものあり、男子若し婦を得んとするときは、一荷の水と、一束の薪とを、婦家の門前に置く、婦の両親承諾すれば、之を家に入れ、然らざれば、數日を経るも之を顧みず、此の場合には、男子両親に物を贈り承諾を求む、諾せざれば、婦人を誘説して共に脱走す、此の如き行爲あるも、両親は罰する能はず、之を左右するは酋長の命に限るなり。

○葬儀

擺安種族は、死体を水牛の皮に包み、之を住居の近傍に葬り、猥りに他人の之に近づくと許さず、墓は石を以て區域を造り、死者の兵器衣服を納め、死体を最近の高山に向ひて坐せしめ、柩ハ石片にて之を掩ひて墓を埋め、草にて其上を蓋ふ、一年一回墓地に供物を供へて神靈を祭るなり。

○牡丹種
の首邑

擺安種族の一種牡丹種族の首邑は、海面を抜くこと四千尺の山頂に建て、險阻なる阪路に木材石塊を積み、敵の來ることあれば、之を抛ち

○番人の
弊風

て防禦すべき準備をなすといへり。
番人の弊風は、人肉を喰ふこと、酒を嗜むこと、人を殺すこと、阿片煙草を吸ふこと、檳榔子を嚼むの風習なり、人肉を喰ふことは、方今止みたるも、人を殺して頭顱を得るは、今尚弊習を改めず、酒を得れば終日痛飲して醒むるを知らざるなり、檳榔子を嚼むことは不潔なれども、蕃人は一種の美を添ゆるものとせり、阿片煙草を吸ふは、支那より移住せし者に多しとす。

○農産物

農産 人民の産業は、重に農業なれば、農産物を多しとす、就中、米穀、茶、甘蔗、薯等、を多しとす、而して茶は北部に産し、砂糖は南部に産す。

○林産

林産 森林は、本島の富源なり、高山の頂より深谷の底に至るまで、鬱葱たる森林をなし、巨木良材甚だ多しと雖も、支那人の至る所は、伐り尽して秃山となりぬ、然れども良材は、生番地に多しといふ、道路開けず、運輸不便なるが爲め、市場に送る能はず、空しく山中に朽腐せしむ、獨

り樟樹に限り樟腦製造の原料たるを以て、盛に之を採伐す。牧畜の業は極めて微なり支那人の輸入したる家畜は、水牛にして耕耘及び運搬に重要なり、牛馬甚だ少し、食料に供する者は豚なるのみ、猫犬も支那人の輸入せしものなり、犬は早くより生蕃の飼養せるものあり、鹿は往昔盛に蕃人に飼養せられしが、平野全く支那人に有せらるゝに至り、今は只山中に棲むのみ。

漁業は、西海岸に盛にして、支那人熟蕃と共に従事し、安平、臺南、打狗等沿海の漁民、一萬以上ありといふ、漁獵の法も、大に進歩し、捕獲する魚ハ、其種類頗る多く日本々土の近海に産するものと略同一にして、松魚、鱈、鯖、鮪、鰹等あり、然れども最大の魚利は魚鱈を供する鱈の來集する時期にあり、魚類の外は、牡蠣なりとす、牡蠣は種育法ありて能く蕃殖して産額意外に多し。

○鑛産 本島に鑛物の富源あるべしとは、世人の評する所なれども、未だ

専門家の調査を経ざれば、果して富めりや否やは、斷言し難し、其今日まで知られたる鑛産物は、石炭、硫黄、金、石油あるのみ、石油は本島の北部に多量を産し、基隆近傍に最も多く、新竹より埔裡社に至る山中にも之あり、南部にては恒春の近傍に産地あり、石油は滄尾より一里許下流屯堡に湧出する所あり、苗栗の山中にも石油井あり、硫黄は北部火山の舊火坑内に生じ、其美麗なる品結は黄色、燦然として、噴瀆孔の側壁に垂下す、其産出の量頗る多し、金は基隆河の上流に位せる山中に産し、砂金は其下流の溪中に産す、現今の金鑛は、三百年前日本人之を發見して採掘し、蘭人も之を試み、鄭氏の時も採集せりといふ。

工業 本島に於て工業として盛なるは、砂糖、茶、藍、樟腦等の製造あるのみ、紡績、製絲、織物等の如きは規模の宏大なる工業なく、綿布、毛布は他國より輸入せり。

商業 本島の商業は、茶、砂糖を輸出品の重なるものとし、これに亞ぐは

樟腦、石炭、硫黃にして麻布、薑黃、龍眼、竹筍等は僅少なり概して本島は産物に富むを以て、人民一般に富み、其内には數千萬圓の財産を有するもの數多ありといへり。

○道路

道路 島内交通の道路は、甚だ悪しけれども、重なるもの三あり、一は臺北より基隆を経て、卑南に出で臺東に至るもの、是なり、後の二道は山間を通過するが故に、道路甚だ險惡にして、往々乾涸せる河床を道路に代用す、降雨の時の急流に變じ、交通の絶ゆる所あり、又別に大姑隘より苗栗を経て埔裡に出で、雲林を経て嘉義に出づる道あるも、同じく險惡なり、路の如きは、徑路にして工事を行はず、河流には、橋梁を架する所少く、所により藤蓐を用ひ、鎖として之に平底の小舟を繋ぎ、河を渡す所あり、河流多くは平時は涸れて水なければ、徒歩すべきも、雨時には俄に

○河運

漲溢して、往來を遮断することあり。

河運 河流にして舟楫を通ずるものあるは、獨り淡水河あるのみ、なり、河口より上流五里許の間、小蒸氣を通して大稻埕に至り、其支流基隆河口は、是より上流四里の間、支那形の短艇を通すべし。

○鐵道

鐵道 鐵道は劉銘傳の巡撫たりし時に、之を興し、基隆より臺北を経て新竹まで通せりと雖も、規模の小にして、構造の不完全なる、決して本土に行はるゝものゝ比にあらず、然れども全嶋中道路といふべきものなき所なれば、貨物運搬の方便として頗る効力あり。

○電信

電信 從來通信の方法も、亦劉銘傳の興せる處にして、海底電信にて澎湖島より安平に通じ、臺南を経て臺北に至り、淡水に及び更に之より海底電線にて福建省の芭蕉島に通じ、大陸に連絡せり。

○郵便

郵便 郵便も亦劉銘傳の定めたる所なりと雖も、不完全にして内地の郵便と同一の論にあらずしが、我が版圖に歸するに及び、電信郵便

ともに遞信省に屬したる官吏出張して、方今其制度完備し二十餘箇所に於て爲換貯金等取扱はるに、至れり。

○史談

史談 臺灣島は、久しく未開人民の住居せし地なりしを以て、往古の歴史は漠として尋ねべきなし、初めて支那に知られたるは、明朝以後のことなり、千四百二十六年より三十五年の間（即明の宣徳の頃）王三保なるもの、東印度諸島に航せんとして、風に阻まれて臺灣に泊せることあり、是れ明朝の本島を知りし初めなり、然れども支那政府は内治に煩はしく、之を化外に置きて顧みざりしが、支那人の倭寇と稱する四國、九州、中國の浮浪無頼の徒根拠を臺灣に設け、八幡大菩薩の幟を立て、支那海岸に出没するに及び初めて海防の策を講じたるも其効あらざりき、此頃我が日本人の臺灣に據れるは事實なり、時に葡萄牙人、蘭人と支那貿易にて競争を起し、其弊や戰鬪となり、支那政府は葡人を助けられたれば、蘭人敗れ澳門を去りて、澎湖島を占有し支那政

府に請求する處ありしも、聽かざりければ、蘭人は再び恐嚇の方略を用ひ、海岸諸所を暴掠せり、是に於て支那政府は再び蘭人に向ひ、蘭人若し澎湖島より退かば城を臺灣に築き、之に據るも敢て問はずと約せり、これより蘭人は澎湖島を去りて臺灣に據り、砲臺及城を築き、既に来りて臺灣に據れる西班牙人を逐ひ去らしめたり、此時既に日本人は、臺南に住居して福建、廣東沿岸の地方より來れる商船と互市せり、蘭人の臺灣に入り政を施すや、土人及び支那人には、課税するも、日本人は、先入者なるを以て、租税を納るゝを肯せず、蘭人も亦法令を日本人に厲行する能はず、却て日本人と荷蘭領事との間に、不和を生せり、間もなくして濱田備兵衛報復の事あり、寛永十三年に至り、幕府に於て外國貿易を嚴禁し、獨り蘭人の長崎に來りて通商するを許すのみ、是に因り日本の商船、海外に航するものなく、日本商賈は臺灣に踏を絶ちぬ、蘭人の臺灣を領せしは、千六百二十四年より、千六百六十二

年に至る三十八年間にして、鄭成功と戦ひ敗れて瓜哇に還る。鄭成功は明朝の遺臣鄭芝龍の子にして、母は長崎の人、田川氏なり。時に支那にては清廷起りて明朝亡びければ、成功義兵を起して、清軍と戦ひ、明朝を恢復せんとせり。然るに支那大陸の戦に敗るゝに及び、遂に臺灣を取りて根據地となす。持久恢復の策を取り、和蘭人と戦ひ、臺灣を占領し、東寧と稱せり。成功は志望成らずして、天曆十六年即ち清の康熙元年に年三十九にして本島に歿す。其子經なるもの、父の遺志を繼ぎ臺灣に據り、明朝の恢復を圖り、漳州、泉州に轉戦し、一時は勝利を獲て恢復の望ありしも、康熙二十一年に、經も亦歿し、幼子克峽なるもの位を嗣ぎしが、其後清軍大舉して島に逼る。鄭氏の兵之と戦ひ利わらず、克峽遂に海に降る。臺灣の地初めて清朝の版圖に入れり。康熙帝、本島を取り、臺灣の故名を復し、兵を派して臺灣及び澎湖島を守り、制度を改め、政務を舉ぐ。然れども人民内乱を興すもの、絶ることなし。朱一貴の

乱、林爽文の乱は有名なるものなり。此兩乱の後、海盜騷擾の事あり。本島、清朝に屬してより、二百餘年を経るも、施政の區域は、西岸の地に止り、東岸及び山中に棲める蕃人は、未だ清國の政化を受けず。外人の海岸に漂流するものある時は、之を虐殺せしこと屢々なり。明治四年琉球の人民、六十六人颶風に會ひて、漂着し、僅かに十二人のみ歸りて、其他は牡丹蕃民の爲に殺されたり。明治六年、備中國小田縣の人民四人も、此地に漂着したるに、又其掠奪に遇へり。是に於て我が政府は、時の外務卿副島種臣をして清廷に告ぐるに、此事を以てし、且つ師を出して罪を問ふ所以を言はしめしも、總理衙門の答ふる所、曖昧にして、要領を得ず。遂に師を出すに決し、四月都督西郷從道、參軍谷干城、赤松則良、長崎に至り、壯兵を募り、三千六百五十人を得、進、孟春、大有、高砂の諸艦を率ひ、長崎を發し、有功丸先づ發し、其他の諸艦相續て入り、牙營を椰嶺に設けたり。二十二日石門に進撃し、牡丹社酋長谷子以下十二

人を斬り南都十八番社の内七社は風を望みて降れり、六月三日、險を冒し三面より牡丹社に入り、支營を風港に置き、要害を扼す、七月一日南都十八社悉く出て、降り、八月、風港山後の生蕃三十九社も亦來り降る、時に清廷臺灣全嶋を以て其版圖に屬するものとし、外國の軍兵を駐むる理なしとし、撤兵を我政府に要求す、是に於て參議大久保利通、辦理大臣となり清國に赴き、其違言を責めしも、清廷の答辨、依違として決せざりしが、十一月終に五十萬兩を出して、被害及出師の費用を償はしめ、十二月師を班し、臺灣征討の局を結べり。

其後十二年、佛國、清國に迫りて、安南を獨立せしめんとし、兩國の間に葛藤を結び、佛國の要求する處、清國に容れられずして、戰端を開き、本島は佛國攻撃の一方面たり、劉銘傳は、兵を督して佛軍を陸上より擊退せりと雖も、本島を封鎖せらる、幾許もなくして、兩國間に、平和條約成りて、封鎖全く解けたり、是より清廷大に本島の忽かせすべからざり。

るを覺り、本島を福建省の管轄より分離し、臺灣省となし、劉銘傳を其巡撫に任せり、銘傳、職に就くや、府を臺北に定め、銳意治を謀り、治績稍見るべきものあるも、人民の怨望を來し、邵友濂なるもの、其後任となる、現在の臺灣は、劉銘傳革新の後、多く變更せる所なしといへり、明治二十七年、我邦、清國と戰端を開くに及び、我軍澎湖島を占領し、二十八年、四月、馬關に於て、講和の條約成り、清國、臺灣、本島及諸屬島を割て我に譲り、三百年以前、日本人民の占有せる山河、再び我版圖に歸するものと、なりぬ、爰に於て、我政府は、軍を派して、王師に抗する土匪を平げ、臺灣總督府を置き、臺北、臺灣、臺南に縣を置き、全島を管轄せられ、從來、支那政府に歸服せざりし蠻民も、皇威に服して、悉く我か良民となりぬ。

○附編 萬國誌。

○第一章 亞細亞洲。

○位置及境界。東半球の東北に位して世界第一の大洲たり、東太平洋に面し、西歐羅巴亞非利加の二洲に界し、南は印度洋西は北氷洋に接す、而して高山の多さと、高原の廣さと、半島の大多りと、人民の繁さとは、共に他洲に其比を見ざる所なり。

○朝鮮。我が邦條約國の一にして、北は長白山を以て支那と境し、正北の

一小部僅かにシベリヤに接し、他は日本海及び黄海に臨めり。

○全國を八道に分つ、即ち平安咸鏡黃海京畿江原忠清全羅慶尙是れなり、京城は京畿道の漢陽にありて人口二十五萬あり。

○釜山元山津仁川を此國の三港と稱し、我が領事廳は釜山にあり。

○氣候寒暑共に烈しく、土地肥沃なれども、民皆遊惰にして、産物少なし。

其風俗は支那明代の制を用ひ、文字は漢學の外に又自國のものあり、此國古は三韓なりしが其後新羅となり、高麗となり、今は即ち朝鮮となる。

支那。我が邦條約國の一にして本洲東部の一大帝國たり、西方極めて高く漸く東南に下る故に諸川多く西より東に流る。境域廣大にして本洲の四分の一を占む、此國古より定まりたる國號なく今は清といへり。

全國を支那本部、滿洲、蒙古、新疆、西藏の五大部に分つ。支那本部。北京は京城にして直隸省の中央にあり、人口凡そ一百万

世界大都の其一なり、宮殿美觀、市街方正にして、道路雜踏を極むるも路上不潔にして、乞食多く、氣候寒暑共に烈しく、十月より河水堅氷を結ぶ。

上海は此國第一の良港にして我々領事廳あり、市中に烟館とて女子

に客を引き以て鴉片を吸はしむるもの殊に多し、抑鴉片は毒藥にして之を飲めば生命を失ふ、支那人之を知らざるにはあらざれども、一度用ひては其快忘ること能はずといふ、我が國にては之を嚴禁せり。

香港、天津港、廣東共に貿易場にして南京は華奢風流の都會なり。

川には黄河、揚子江最も大に運輸の便あり。

高里の長城は本部北邊蒙古の界にありて長さ五百十數里あり、臺灣は厦門に對する大島にして先年我々邦問罪の擧ありし處なり、河南の西に洛陽城あり、周の天子の故都たり、四川は古蜀の地にして成都は即ち其古城なり、此處諸葛孔明の遺跡多しといふ、山東省は昔の魯國にして孔子の生れし地なり。

本部の風俗は滿洲の制に従ひて男は頭髮を剃り中央に少しく止め編みて後に垂れ、女子は耳環を穿ち足を括りて小ならしむ、其物産に

至りては陶器、茶、輸出品として其名高く尙ほ五穀、金銀等を出す。
滿洲。支那本部の東北に位し黒龍江の大河北境を流る本洲は清帝
の本國たり。

蒙古。支那本部の北方興安山脈を隔てたる大地にして、大半は沙漠
なり故に耕作する者甚だ尠し、且つ人民多くは水草を逐ふて一定の
家居なく多く游牧を生業とす、其貨物の運搬は皆駱駝を使用せり。
新疆。蒙古の西に位し、又ズンガリヤともいふ首府をヤルキヤンと
いひ隣國と貿易の要地たり。

西藏。世界第一の高原にして海面を抜くこと一萬二千尺昆崙山北
境にあり、首府をラッサといふ住民雜種にして佛教頗る盛んなり、國
民の大半は僧尼なりといふ。

安南。又交趾支那とも稱し、佛蘭西の保護を受く、カンボヂヤ河の近傍
は肥沃にして農業に宜し、此國犀象の類甚だ多く氣候炎熱にして一

○世界第
一の高原

○安南

年内雨節、乾節の二期あり、霧深く、暴風、暴雨の雜屢ありといふ。

暹羅。安南の西にありて、首府をバンコックといふ、我が國にヤマトと

唱ふる家、鶏は此國より渡りしものなり、南部の半島をマレー半島と
云ふ、此半島概ね暹羅に屬すれども最南のマラッカは英領なり、其極
南にシंगाポール港あり、東洋第一の繁華地とす。

此國近時百般の文物大に開化に向へり、氣候炎熱なれども、寒を覺ゆ
ること往々あり、一年を暑節、雨節、寒節の三季に分つ。

緬甸。暹羅の西にありて、英吉利の領地なり、首府をマンダレイといふ、
イラハアイ河は大川なり、此國古強國なりしが數十年前英國と屢戰
ひて敗北せしより、終に其支配を受くるに至る、象多くして耕耘、戰闘
皆之を使用す。

印度。國の半は沙漠にして十分の九は英領たり、首府をカルカッタとい
ふ英國の總鎮あり。

○印度

○緬甸

○暹羅

○世界第一の高山

ヒマラヤ山脈北境に連亘し山中最も高さものは二萬九千尺あり、世界第一の高山とす、サンプ恒河、印度川の三大川皆ヒマラヤ山に發し沿岸皆肥沃なり、南海に錫蘭島あり、島内寶石に富めること又世界第一なりといふ。

此國は古の天竺國にして釋迦出世の地なり、國內猛獸多く、獅子、虎、象、犀、コブラと稱する大蛇等あり、人類の階段殊に甚しく上位の人の下を視ること恰も犬馬の如としいふ。

榕樹と稱する樹木は此國に生し、世界に於て奇異なるものと稱せらる、其枝垂れて地に入るときは悉く根を生じ、歳を経るに従て其數を増し、一木三百幹の多きに及ぶものありといふ。

○阿富汗斯坦及俾路芝斯坦

阿富汗斯坦及俾路芝斯坦。印度の西に位し、甲は北部にありて首府をカブルといひ、乙は南部にありて首府をケラットといふ、人民の住居半は家に、半は帳幕にして多く牧畜を業とす。

國內盜賊夥しく行商するものは皆隊を組み兵器を携へて之を防ぐといふ。

○波斯

波斯。土地高くして沙漠多く、南部は不毛にして北部は肥沃なり、首府をテヘランといふ、此國昔は強國にして其近傍は大抵屬國なりしも今や衰へて小國となれり。

○亞拉比亞

亞拉比亞。東にペルシヤ灣、西に紅海、南にアラビヤ海あり、紅海に臨める地は土耳其に屬せり、國の南端に亞丁港あり、英國に屬し、紅海出入の船舶は皆此に碇泊す。

メッカ、メソナの二府あり、メッカは回教の祖マホメットの生れし地にして、メソナは死したる地なり、其地は毎年土耳其、印度、波斯、中央亞細亞、亞非利加等より此に詣するもの多く、皆隊を組み來りて拜すれども歸途に就くもの至て少なく、概ね長途の疲れに堪へずして此地に死すといふ。

産物は馬を以て天下の最良種とす。

沙漠に住めるの民は常に奔掠を事とするを以て國內の商人此を通
行する時は必ず隊を組み又駱駝を使用す。

○亞細亞
土耳其

亞細亞土耳其。歐羅巴洲の土耳其と一國たるを以て首府は歐洲内に
あり、此地耶穌の降誕せし所なるを以て、神聖地と稱し巡拜するもの
甚だ多し。

○露領亞細亞

露領亞細亞。コウカサス、ブツカリヤ、シベリヤ等の總稱にして、本洲の
北部に位し、其面積殆んど本洲の三分の一を占む。

シベリヤは、烏拉山より東方カムナヤツカ、カラフト等に至る廣大な
る國なれども、不産の地多し、トボルスク、オムスク、トムスク、イルクス
ク等の都會あり。

朝鮮の近地に、ウラヤチヌストツク港あり、東海の要路たり。

シベリヤの中間、深林中に居るものは、皆魯西亞本國の罪人なり、毎年

本國より此地に流さるゝもの凡そ一萬三千人、其内罪の輕きは地面
を與へて妻子と共に生活せしめ、重きは礦山の業に就かしむといふ。

○第二章 歐羅巴洲

○位置及
地勢

位置及境界。亞細亞洲の西に位し、東は烏拉兒山脈を以て亞細亞洲に
界し、南は地中海を隔て、亞非利加洲に對し、西は太平洋北は北氷洋
に面す。

○地勢

本洲の廣さ亞細亞洲の五分の一にして最小なるものとす。
地勢。平野多く殆んど全洲の半を占め、東北より起りて西岸に達せり、
山脈は平野の南に多くアルプス山脈最も著名なり。

○海岸

海岸。黒海は高加索山脈の西にありて、裏海は東にあり、白海は本洲の
北にあり、地中海は亞非利加洲との間にあり、其他バルナツク海、北海
等あり。

半島はスカンデナビヤ半島、堪抹半島、西班牙、葡萄牙の半島、以太利の半島、希臘の半島等あり。

チンラルカル海峡は本洲と亞非利加と相對して地中海の口を鎖せり。

露西亞。帝國にして疆域の大なること世界第一なり、亞細亞を三分して其一を有ち歐羅巴を二分して其一を有てり。

ボルガ河は歐洲第一の大河にして、ウラル河は亞細亞の境を流る、其他ベスナユラ河、ニアル河等の大川あり。

首府をセントペイトルスボルグといふ壯麗なる大都なり。外國との貿易は重もに亞細亞地方と英國、獨逸なりとす。

リガ、クロンスタット等の地方は共にバルチック海邊にあり、五穀木材、麻苧の類を輸出すること多く、チチカガ府は黒海の濱にありて、五穀の交易場なり、又アストラカンは裏海の濱にあり漁業の名區にし

○露西亞

て、亞細亞と陸商互市の要地なり。

瑞典、諾威。共にスカンデナビヤの半島にありて、キチレン山脈を以て境とせり。

諾威は通商甚だ盛んにして、都府をキリストヤコヤといひ、ヘルタンは佳港なり、ハンメルヘストは世界極北の港にして鱈を産すること實に夥多なりとす。

瑞典は鐵道運河ありて内外通商の便甚だ盛んなり。

兩國統御の君は一人にして人民書を讀むを好み研究する所多しといふ、北邊に至りては二ヶ月間日光を見ざる所あり、されど時々北光の光を放つあり、夏又二ヶ月の長さ晝間あり。

獨逸。二十六邦同盟の一帝國にして、其内普魯士は最も強大にして、人民も亦多し。

普魯士は即ち盟主にして獨逸國の帝を兼ね、首府をベルリンといふ

○瑞典

○世界極北の地

○獨逸

ライン河風景を以て世に著はる。

此帝國は君民同治にして上院と下院とより成れり、其普魯士は歐州強國の一に數へられ、士卒の多き、兵制の嚴なる、人民の鋭敏なる、教育の善美なるは共に最も有名なり。

○和蘭
コロウンはライン諸邦の大都にして、酒類の賣買盛んなり、府中有名の大寺ありて、建築六百年を経、近年漸く落成すといふ。

和蘭、比耳時、噠抹、和蘭、比耳時の二國は海面より低き處多きを以て沿岸に堤を築き、其浸害を防げり、此事を土人、マイクと云ふ、一たび破るるに於ては國民悉く魚腹に葬ひらるゝを以て常に番人を置き、之を守ること甚だ嚴なり、此二國元と一國なりしか中頃又分れて二國となれり。

和蘭は首府をアムステルダムといふ、海外に屬地多く、其版圖の廣大なること、英國に次ぎ、東印度、西印度等は概ね其有なり、外國貿易又盛

○比耳時

んにして我が國にも早くより來りて、交易し、諸藝を傳へたり。

比耳時は人口の繁きこと本洲第一とす、首府をブルッセルといふ、其南にサウトロウ村あり、昔佛帝ナポレオン歐洲を震動せしが此地

の一戦に敗れて終に絶海孤島の鬼となりし有名の古戰場たり。

○噠抹

噠抹は小國にして半島と島とより成り、グリーンランド、氷洲及び西

印度中の小島を領有す、セヘランド島に首府コッペンハーゲンあり。

○英吉利

英吉利、二大島より成り、東の大島を英倫、威勒士、蘇格蘭とし、西の大島を愛爾蘭とす。

政體は君民同治にして、海外通商の盛大なること世界第一とす、其商船二萬二千餘艘、水夫二十萬人に過ぎ、海軍の盛んなる亦他に比なしとす。

海外屬地甚多く、五大洲中之れあらざるなし、其大なるものを北亞米利加のカナダ、アウストラリア、メスマーニヤ、ニューゼaland、印度、錫蘭

○世界第一の大都會

等とす。

首府をロンドンといふ、ティムス河畔にありて、人口凡四百二十餘萬、世界第一の大都會とす、地下鐵道殊に有名なり、府の東南にグリーンウツチあり、天文臺あり、子午線の基とする國多し。

○佛蘭西

佛蘭西。本洲の北隅英國と一水を隔つる處にあり、首府をパリといふ、市民工藝に工みに新奇を競ふ、各國流行の衣服は多くこれより起るといふ。

國民多くは農業に従事し、葡萄酒の製出最も世に高し。

屬國屬島多く亞非利加にアルゼリアあり、地中海にコルシカ島あり、有名なる「ナポレオン」一世は此島の人なり、其外安南あり、又亞非利加

○西班牙及葡萄牙

西班牙及葡萄牙。共に半島を爲して亞非利加と僅かに海峡を隔つ、之を「ワプラルタル」海峡といふ、内に英國の砲臺ありて、要害無比と稱す、

英軍常に之を成り事なき時は兵士岩壁に攀ちて猿を捕ふるを樂みとす、蓋し本洲中核の多きは只此地のみなりといふ。

西班牙の首府を「マドリッド」といふ、市街寂寥として一國の都城たるを覺えず、「バアセロナ」港は地中海に臨みて粟を産すること多く、土人其料理に甚だ巧みなりといふ、又蠶蠶の業盛んなり、國民は男女共に華美を好み、歌舞を好むこと甚しく、良夜郊野に出で、舞踏し以て無上の快樂となすを常とすといふ。

葡萄牙の首府をリスボンといふ。

○意大利

意大利。地中海の半島にして首府をローマといふ、本洲の歴史上最も著名なる處なり、其王宮政府は勿論彼天主教の首領たるローマ法王も之に居れり、且つ前代古跡の壯大なるもの古の名畫彫刻の夥しき寺院堂宇の壯麗なる枚舉に遑わらざるも、當時は市街狹小となり、乞食多く旅人に憐みを乞ふて止まずといふ。

フロレンスは名畫名像を以てゼノアは、コロンバスの出生地を以て共に著はる、又ベニスといふ奇異なる都府あり、市街皆川にして舟を以て車馬に換へ以て往來すといふ。

此國の絹布は本洲第一の産出とせり。

瑞西。本洲中最高の地にして國中皆山なり山間湖水多く風光明眉の勝地に富み、且つ夏時頗る涼しきを以て、他國の人毎年來遊避暑するもの少なからず、稱して歐洲の遊園といふ。

首府をセチヤといふ、時計製造最も盛んなり、外國との貿易は重みに獨逸、佛蘭西の二國なりといふ。

澳太利。ダノー、プ河、國を貫流して水陸の便宜しく農産、鑛産、林産に富む、首府を維也納といふ。

土耳其。境域頗る大にして、亞細亞に跨る首府をコンスタンチノブルといふ。

○位置及境界

○澳太利

○土耳其

○希臘

○位置及境界

此國元來、土地廣く地味豊かに農工商業盛んなりしも、虐政の下に堪へるゝこと能はずして、民屢叛きしを以て國域次第に減じ國勢從つて振はざるに至れり。

希臘。學術技藝に秀で本洲開化の根元たり、首府をアテンド云ふ。此國アレキサンドル王の時には境域本洲亞細亞亞非利加に跨り、頗る盛んなりしも、後ローマに滅ぼされ、ローマ亡びて土耳其に屬せり、然れども土耳其の虐政之を甘受すること能はず、遂に七十餘年前奮て獨立するに至りたれども、現今は僅かに海隅の一小國に過ぎざるなり。

○第三章 亞非利加洲

位置及境界。過半熱帶の下にあるを以て五大洲中第一の暑き土地なり、東は紅海、印度洋に、西は大西洋に面し、南は印度大西二洋の間を分

附圖第四時○第三章亞非利加洲

○地勢

ちて南氷洋に臨み、北は地中海に接す。
 地勢。本洲は廣濶たる平原にして山岳は只其周邊を連亘するに過ぎず、且つ蠻夷なるを以て内地の形勢今に至るも充分探ること能はず、抑も内地に入るは實に危険極まり異草繁りて道路なく惡疫を起し易く、土人の爲めに食料に供せられ、或は猛獸毒蛇の餌食となる等の恐れあるを以て容易に其探險は出來得可からざるなり。
 沙漠。北方にあるをサハラといふ、世界第一の大沙漠なり、南方にあるをカラハリといふ。

○湖

河湖。東北にナイル河あり、本洲第一の大川とす、其他南にザンベツ河、チレンゴ河あり、西にニセル河、コンゴ河あり。

○動物

動物。象、虎、獅子、鱷魚、斑鱗、麒麟、駝鳥、其他珍禽奇獸に乏しからず、而し

○埃及

て本洲の人口は凡そ二億餘萬ありといふ。
 埃及。政體は君主專制にして兵制文物總て歐州に倣ひ見るべきもの少なからず、此國は本洲第一の古國にして往古は富強の一大帝國なりしも、後亡びて他國に屬し、現時土耳其の所有たり、都府をカイロト
 いふ本洲第一の大都とす。
 新舊の二大工事最も著はる、ピラミットは即ち古昔の大工事にしてナイル河畔にあり、高さ數十丈石を以て尖方に疊み天下の奇觀なり、スエズ運河は其新工事にして亞細亞と連絡せし土地を開鑿したるものなり。

○奴比亞

奴比亞。ナイル河の上流にありて埃及の屬國なり。

○亞比尼亞

亞比尼亞。奴比亞の南にあり、民皆勇悍愚蒙通商の事を知らず、牧畜を以て生活す。

○巴爾諸國

巴爾諸國。モロッコ、アルゼリヤ、トコス、トリポリ、バアカ五國の總稱

○中央亞非利加

にして、相並び地中海の南岸埃及の西にあり。中央亞非利加。炎熱甚しきも山あり川あり雨時に降りて土地肥沃なり其が爲めにや土人の生活は稍、人間に近しとす。

○西部亞非利加

西部亞非利加。セネガンビヤ、リベリヤ、上ギネヤ、下ギネイ四地の總稱にして、セネガンビヤは英佛葡三國の殖民地なり、多く椰子油を産出す、英人石鹼を製するの用に供せり、リベリヤは黒人の共和國にして、上ギネヤは民常に争鬪を事とし往々女隊をも見受くといふ、下ギネイは重もに葡國に屬せり。

○南部亞非利加

南部亞非利加。概ね英國に屬せり、其西南端は有名なる喜望峯にして四方の景色畫くが如しといふ。

○東部亞非利加

東部亞非利加。印度洋に臨める東岸の地にしてツマリ、ザンボイバル、

モザンビクの三國より成る甲は埃及に、乙は亞拉比亞に屬し、丙は葡
萄牙の殖民地なり。

○本洲島嶼

本洲島嶼。最大なるものをマカスカル島とす、モザンビク海峡を隔て、東方にあり、首府をマナ、リボといふ、君主專制にして民殘忍なり。

此外小なれども有名なるものはセントヘレナ島なり、ナポレチオン一世の流されし處にして英領なり。

カナリヤ島はカナリヤ島の本國にして西班牙に屬す、アツル、マデイアの二島は葡萄牙に屬せり。

○第四章 亞米利加洲

新舊世界。亞細亞、歐羅巴、亞非利加の三大洲を舊世界といふ、今より四百年前の昔は人皆見聞狭く世界は此の三大洲より外になきものと

附屬國誌の第四章亞米利加洲

○新舊世界

のみ思ひしに、其頃西班牙の「コロンパス」云ふもの出で、西方別に大地即ち此亞米利加洲あるを發見せしより人智大に改まり遂に之を新世界と稱するに至れり。

○位置及境界

位置及境界。西半球にありてパナマ地峽により自然に南北の二に分れ北を北亞米利加、南を南亞米利加とす、東は大西洋西は太平洋に面し、北は北氷洋に至り南は南氷洋に達す。

○海岸

海岸。北亞(北亞米利加)以下之に倣ふは海岸の出入多く東方最も甚しく南亞(同前)は之に反し出入殆んど稀なり。メキシコ灣は北亞にあり、本洲第一の大灣にして其他ホドソン灣、ヒン灣、セントラウレンス灣、カリホルニヤ灣等又北亞にあり。ベーリントン海峽は西北端亞細亞と接する處にして南端にマゼラン海峽あり。

半島は北亞にのみあり、西北隅にはアラスカ、東にはランゾドルの半

島ありて共に大なり、南にはフロリダ、ユカタリの二半島ありてメキシコ灣を抱き、西にはカリホルニヤ半島ありてカリホルニヤ灣を抱く。

島嶼。西印度諸島はメキシコ灣の東南にあり、其數一千餘、其内大なる

ものをバハマ、ジャマイカ、ヘイチ等とす。

此諸島中にサンサルバドル島あり、コロンパス初めて陸地を發見せし所とす、初め「コロンパス」此地に来るや方位を誤まり印度の地なりと思ひしより、終に土人呼びて印度人といひ、島を印度諸島と呼びしが後に其誤りを知り、西の一字を冠らせて西印度とし以て東印度と別てり。

其他「ニューハンプドランド」島はセントラウレンス灣の東にあり、クリオンランド島又大に、其南端に至りては僅かに二三の小島あるのみなり。

地勢 北亞米利加はロッキーマウンテン山脈アラスカ半島の東より起りてメキシコ湾の西に至る、山脈の西は總て高地なり。此山脈とアレガコー山脈との間は平野にして北海より遠くメキシコ湾に至る、平野の間に僅かの高地ありて河水を南北に分てり、故に河水の南にあるものは南流し北にあるものは北流す。ミシシッピ河は南流の諸川を合して、メキシコ湾に入る、長さ一千六百哩、世界第一の大河とす。其他チルソン河、マッケンゾイ河は共に北流し、コラド河、ユコン河、コロンビヤ河は共にロッキーマウンテン山の西にあり。南亞米利加はアンデス山脈、パナマ地峡より起り、西岸を傳ふて南端に終る、東方又諸山脈あり、山脈の近傍概ね皆高原にして其間に平野あり川流あり。北方にナリニコ河、中央東流にアマゾン河、南方にラプラタ河ありて

南亞の三大河とす。

ナリニコ河畔の地をリヤノスといふ、乾節には河水涸れ草木枯るゝも、雨節には草木繁茂、河水清流、牛馬群遊して俄かに別世界と爲るといふ。アマゾンの下流、沿岸の地をサルバドールといふ、巨大の草木茂り猿猴群をなす、其他禽獸の夥しきこと、幾百萬なるを知らず、且つ人跡絶えてなしといふ。ラプラタ河畔をバンパスといふ、草多く幾萬の牛馬群集せるを以て土人は長繩を以て之を捕獲せり。人口南北兩亞を合して九千萬に過ぎず、此洲は鳥獸の奇なるもの多し、野獸には木虎あり、獅牛あり、リヤマあり、美毛のアルバカあり、尾長猿、七面鳥等あり、鳥には蜂鳥あり、毛羽最も美にして、体長一時世界最小の鳥とす。

○合衆國

○北亞米利加洲
 合衆國。北亞の中央に位し三十八州同盟の共和國にして、人口五千萬、南北兩亞の人口の過半を占むれども國の大なるに比しては未だ多しとせず、地味肥沃に、人民業を勵み、國富強に、文學技藝進歩して歐洲と文明を競ふは西半球に於て此國のみなり、首府をワシントンといふ大統領茲に居る。
 ニウヨルク府は第一の都會にして人口百二十萬、通商貿易の最も盛んなる處なり、ヒラデルヒヤ府は此國の英領たりしを西洋紀元一千七百七十六年六月四日に終に其覇權を脱して獨立を天下に公布せし有名な地なり、ポストン府は貿易の繁盛ニユーヨークに亞ぎ、シカゴ府はミシガン湖に臨み、湖邊ナイヤガラ大瀑布あり、世界第一とす、サンフランシスコは西岸にありて西岸第一の良港とし、カルホルニヤは金礦を以て其名天下に轟く。

○世界第一の瀑布

○加拿大

加拿大。合衆國の北にありて過半は英領なり、首府をオッタワといひ良港をハンクウバアといふ。

○墨西哥

墨西哥。合衆國の南にある高原地にして火山多し、首府をメキシコといひ港をアカプルコといふ。

銀礦多くして有名なり、天下各國の通貨の半は是の銀なりと。

此國の氣候は實に各國各地を兼備せりといふべし、即ち高山は寒氣に堪えず、高原は温涼、海岸低地は炎熱甚しく且つ濕氣多し、又高原の内南北に別れ北は乾燥にして草木なく南は降雨ありて草木繁茂す、中亞米利加。北亞の南端南亞に接するの國にして西北はアフアンテペック地峽を以てメキシコに隣り火山多く地震烈し。

○中亞米利加

○南亞米利加洲

哥倫比亞。南亞の北端にありて首府をボゴタといふ樹膠、ゴム、コナの木皮を多く産す、此皮より幾那を製し強壯解熱の妙藥たり。

○哥倫比亞

此國の盛んなるは、全くパナマ地峽のあるに依る、東西通商の要路にして各國の船舶は地峽の左右に輻輳し中間鐵道を以て貨物を運搬せり、又近年地峽開鑿の工事に従事すといへば成功の曉は猶ほ一層の繁榮を來すならん。

○委内瑞
○厄瓜多

委内瑞拉。哥倫比亞の東にありて首府をカラカスといふ。
厄瓜多。哥倫比亞の南にありて恰も赤道直下に當れり、首府をキトウといふ。

○巴西

巴西。土地廣く南亞の半を占む、首都をオウヤチネロといふ、人口三十三萬、南亞第一の大都とす、而して南北兩洲に於て帝國と稱するは、只此一國のみなり。
茄非を産出すること夥しく世界飲料のもの概ね此國の産なりといふ。

地味又肥沃にして米人の説にもアマゾン河畔を開拓して耕作の地

となせば、滿天下其穀食ふも尙は餘りあらんと、然れども人口少なくて開墾逼からず惜い哉。

○貴亞拿

貴亞拿。英、佛及び和蘭三國の領地なり。

○白露

白露。金山に富み其採量夥なからず、且貿易品として有名なるものは、周歲雨なき海濱及び小島より得る處の鳥糞と硝石とにあり。

○玻利非亞及智利

玻利非亞及智利。甲は通商振はす首府をスクレといふ、乙は狹長なる國にして京城をサンタアゴと云ふ。

○亞然多

亞然多同盟國。通商教育共に盛んなること南亞中に比なし、都城をアエノスアイレスといふ。

○巴拉圭及烏拉圭

巴拉圭及烏拉圭。共に小國にして巴拉圭の首府をアスンシヨンと云ふ、烏拉圭の都府をモンテビデオと云ふ。

○第五章 大洋洲

附屬國時○第五章大洋洲

○大洋洲の位置

位置。東半球の東南にある大小数千の島をいふ。風俗。多くは無智の野蠻に屬し、裸體文身にして文字禮義を知るもの少なく常に漁獵と戦闘とを事とせり。

○區別

區別。東印度諸島メラネシア、アウストラリア、ポリネシアの四區とす。

○東印度諸島

東印度諸島。安南、暹羅の南海にありてボルネオ、スマタラ最大島にしてマヤワ、セベレス島之に次ぐ共に和蘭の領地たり。ヒリッピン諸島は最北にありて西班牙に屬し其大なる島を呂宋といふ都をマニラといふ。

諸島の人口二千七百萬本洲中の五分の四を占む、土人勇悍にして稍半開の域に進めり。

○メラネシア

メラネシア。大島をバプアといふ土人をバプア人と稱し黒面縮毛の野蠻にして風俗頑凶喜んで人肉を喰ふ。

○アウストラリア

此島より極樂島といふ美麗なる一種有名の鳥を産す。アウストラリアシア。アウスタラリヤ、タスマニア、ニューゼランドの總稱にしてアウスタラリヤは本洲最大の島なり全島英領たり。金を産出すること夥しく、ペリアアの金山とカリホルニアの金山と並びて世界の三大金山と稱せらる。

都會の大なるものをメルボルンと云ふ、金塊の産出盛んなり、次をシドニーといふ羊毛輸出の大市場とす、二市共に我が邦の正南に當り同時に晝をなし同時に夜をなせども寒暖は全く相反せり。

鳥獸の奇なるものを産せり、即ち袋鼠、鴨嘴、アフリッキス鳥等あり、ポリネシア。太平洋の熱帯中に散布せる細小の島嶼より成る島中に珊瑚島とて珊瑚を以て環狀の島を成し内に海水を貯へ二三の口門ありて船舶茲より出入す。

オーストラリアは即ち布哇國にして、大に開けポリネシア中の要地たり。

君民同治にして首府をホノル、といふ我が邦人有らば此に出稼す。

○條約國勢一覽表

國名	國政	面積	人口	歳出	歳入
亞米利加合衆國	共和	五八七、七五八	六二八、三、一八七	四、九〇三	四、二九一
魯西亞國	帝	三五一、八七八	九、五八七、〇八〇	四、九、三、一〇	五、四、七、三三八
和蘭國	帝	二二、四	四、五、六、四、五、六	七、〇〇一	六、四、三、三三
英吉利國	帝	二二〇、三九	三、七、八、八、八、二、三	四、〇、〇、三、三	三、五、一、三、三
日耳曼國	帝	三三〇、五、一	四、九、四、一、六、四、七、六	三、一、五、八、二、五	三、一、〇、〇、〇、〇
佛蘭西國	共和	三三〇、二、一	三、八、三、四、三、一、九、二	九、〇、七、〇、八〇	七、五、四、九、四、八
瑞西國	共和	二六、八、三	二、九、一、七、七、五、四	一、九、八、八、四	一、六、五、六、〇
葡萄牙國	帝	五七、一、六	四、七、〇、八、一、七、八	六、一〇〇、六	五、八、三、六、八
伊太利國	帝	三〇、二、二、二	三、〇、五、八、八、〇、八	四、三、三、三、三、六	三、六、〇、〇、〇、〇

國名	國政	面積	人口	歳出	歳入
丁抹國	帝	三、五、六、七	四、一、八、五、二、三、九	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、六、一、三、九
瑞典國	王	三、八、七、一、一	四、八、八、四、六、七、七	一、五、五、五、三、三	一、三、三、三、三
諾威國	王	三、〇、〇、〇、〇	一、六、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
埃太利國	帝	四、〇、〇、〇、〇	一、二、三、四、五、六、七	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
西班牙國	帝	五、五、一、五、五	一、七、五、五、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
布哇國	王	一一、一、一	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
白露國	共和	七、七、七、七	一、二、三、四、五、六、七	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
暹羅國	王	四、一、七、七	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
清國	帝	四、〇、八、三、五、六	四、〇、三、六、八、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
墨西哥國	共和	三、二、八、七、七、六	六、六、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
朝鮮國	王	三、三、七、六、九	一、〇、五、二、八、九、三、七	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇

(注意) 面積は一位を一方哩とし人口は一人を歳出歳入は千圓を以て一位とす

帝國小地理終

○地理學上の用語及定義

- 距離。此處より彼處までの間をいふ。
- 地圖。地を上より見下す圖をいふ。(地圖は必ず其上部を北とすなり)
- 繪圖。或る物を横より見たるを寫せしをいふ。
- 山。周圍の地より大に高さ所を云ふ。(千尺以上)
- 丘陵。山より低きもの即ち二千尺以下の高さあるをいふ。
- 山脈。山の長く連れるをいふ。
- 火山。山頂又は山腹に穴ありて煙灰燒石などを噴くをいふ。(火山は活火山に
て山頂火山は二種あり活火山は現今は噴火するものにし
往古は噴火せざるも往古は噴火せるものなり)
- 温泉。泉の地下を通るとき地中の熱を受けたるものなり。
- 川。陸地を水の流るゝをいふ。
- 瀑布。高處より低處へ河水の急に流れ落つるをいふ。
- 湖沼。陸地の凹みたる處に溜りたる水を池といひ池の大なるもの

を沼又は湖といふ。

○原野。平地の廣大なるものをいふ。

○海灘。海水の動搖常に烈しく船の進行困難なる所をいふ。

○灣。陸地の間に彎入せる海の部をいふ。

○浦濱。名異なるも共に海岸の名稱にして灣の別名に過ぎず。

○港。灣の深く小にして風波を防ぎ船の碇泊に便なるをいふ。

○海峡。二所の水を僅かに結び合する處をいふ。

○岬崎。陸地の一部海中に突出するものをいふ。

○島。陸地の小なるものにして水に圍まるゝをいふ。

○半島。陸の一部にして殆んど水に圍まるゝものをいふ。

○村町市郡國縣。人家の集まりたるを村といふ。村よりも繁盛にして市店多きを町といふ。町の大なるを市といふ。郡は町村の集まり國は郡の集まり縣は大抵國の集まりたるものなり。

明治廿六年九月五日印刷

明治廿六年九月五日印刷

版權所有

定價金貳拾錢

東京市本郷區木町二丁目廿七番地

著者兼發行者 岡野英太郎

印刷者 同 日本橋區板橋町一丁目三番地

印刷所 同 山崎鑑吉

賣捌所 同 遊舍

同 京橋區南紺屋町拾八番地

同 日本橋區鐵炮町 榮堂

同 松 柏堂

特別大賣所

東京同同同同

京

松小目大上

村川黒倉 支店

孫寅支店 松吉支店

東京同同同同

京

水出中三岡

野雲西省 寺屋堂

書書書 支店

店店店店店



